

めばさんの詩を、ポスターにしたい

小見川香代子 薬剤師

「ダメ！ゼッタイ」

「ダメ！ゼッタイ」といわれるとやりたくなる・・・

「ダメ！ゼッタイ」といわれてもやる・・・

薬剤師会から配られるポスターには確かにそう書かれている。

そして、薬局にはただ貼られているというだけだ。

そこには、なにもアクションはない。

ただやっているという格好、ポーズにすぎない。

私もまた、ドラックについての知識だけで、それを使うことについて知ることは今までなかった。

「自己処方仮説」

いろいろな人が使う理由があるということ、そして性格や環境に左右されながら生まれる感情には、薬と同じように自分で処方して今を逃れる必要があるという現実を知った。

「ぴあ」

自分のことで精一杯の人といることは、ホッとできる・・・・・・仲間。

My Little Lover の Hello・Again～昔からある場所の BGM からながれる映像は、仲間という存在の大切さを教えてくれた。

今日だけ、今日だけ、その一瞬一瞬を大切に生きるということが、そこにある。

自分を生きること立ち向かう精神が、伝わってくる。

「ヘルプ」

この詩は、非常にショッキングな詩であると同時に、心の変化が変わって行く様子がリアルに表現されている。心の変化はとても繊細だ。

「ダメ、ゼッタイ」のポスターより、この詩をポスターにしたい。

助けが必要な人にとっても、助けたいと願う人にとっても心に残る。

感じることは人によって違うかもしれないが、救いを求めている叫びは、心に強く響くにちがいない。

「希望とは」

みんなが真実を伝えられる場所を作って、その喜びと困難を分かち合ってくれるというものです。
(リウ・ヒリニカ)

「今を生きるということ」

分かち合えることは、幸せなこと。

苦しみは半分になり、喜びは2倍になる。

そして、今を生きている。